



人間の手で、雨を降らせることができるの

雲ができて雨が降る

空には白い雲がうかんでいたり、黒い雲が空一面を、おおっていたりするのを見かけます。

雲は、小さな水や氷のつぶが集まって、空気中にうかんでいるものです。

雨は、雲から降ってきます。しかし、空に雲があっても、いつも雨が降るとはかぎりません。雲には、雨が降る雲と、雨が降らない雲とがあります。

雨が降る雲は、強い上昇気流がある雲です。上昇気流が強いときには、たくさんの水蒸気が次々と運ばれ、雲の中で水や氷のつぶが、だんだん大きくなっていきます。すると、このつぶが重くなり、やがて雨のつぶになって、地上に降ってくるのです。

実験では成功している

人間の手で雨を降らせることを、人工降雨といいます。人工降雨は、今のところ実験の段階ですが、あるていどの雨を、降らせることに成功しています。

雲がまったくない空から、雨を降らせることはできません。高積雲という雲は、雨を降らせる雲ではありません。むら雲または、ひつじ雲とよばれていて、白やうすい灰色をしています。ヒツジの群れのように、かたまっていたり、細い列のように並んでいます。

水のつぶをたくさんふくんだ、厚い高積雲の中に、氷のつぶができるドライアイスや、よう化銀という物質をまいて、雨を降らせます。（監修・村山 貢司）

